

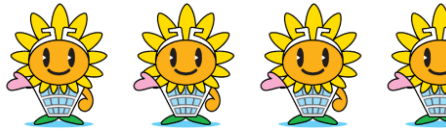



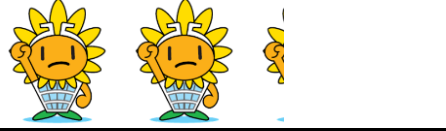

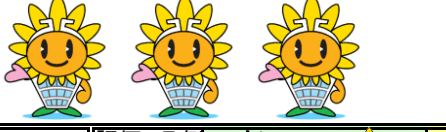




■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)ナリコマフード九州	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.6 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.6	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 4
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.3
・ユニット部材として、OAフロアを採用している。		・耐用年数の長い外装・内装仕上げ材を使用している。 ・階高、空間の自由さを確保することで将来の用途変更 に考慮している。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.6	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.2	LR2/ 1.1 節水	スコア 4
・高効率な設備機器の採用によりCO2を削減を削減している。		・自動水栓に加えて節水型便器を採用している。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.3	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
外構緑化指数20%以上の外構緑地計画がある。		・高温排熱の放出部の設置はない。 ・風を回復させるよう建築物の高さ形状を考慮し、隣棟 間隔指数は0.5以上としている。	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		0.73	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		0.9	
		外構緑化指数	
		33.85 %	
		建物緑化指数	
		0 %	

: 入力欄

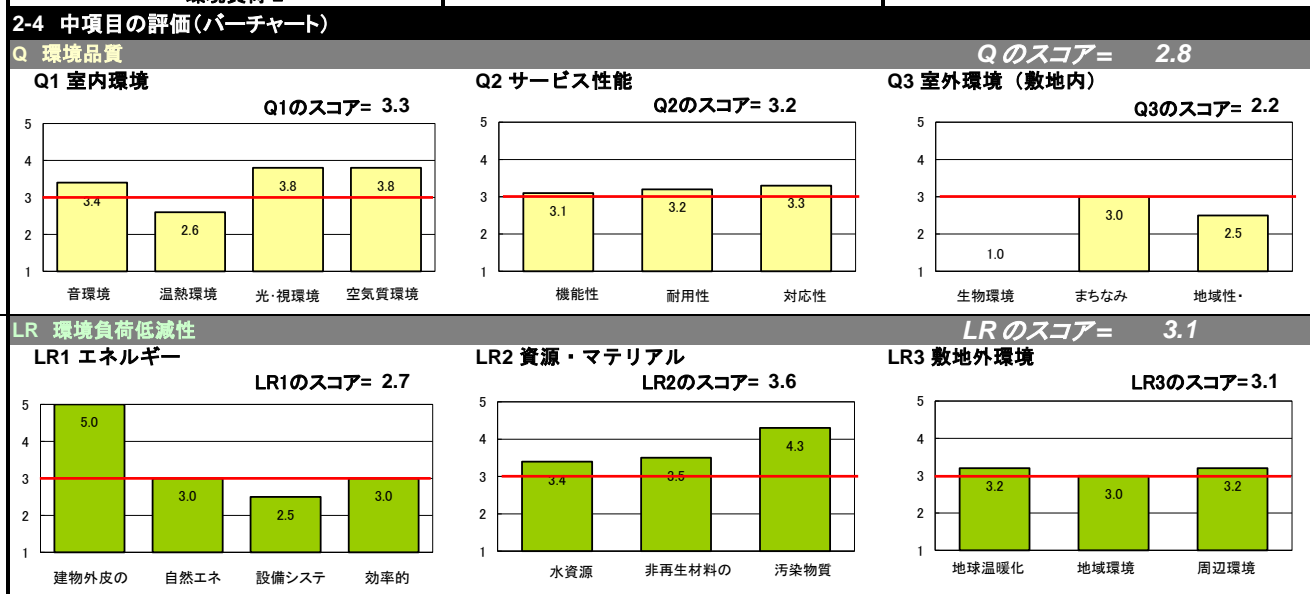
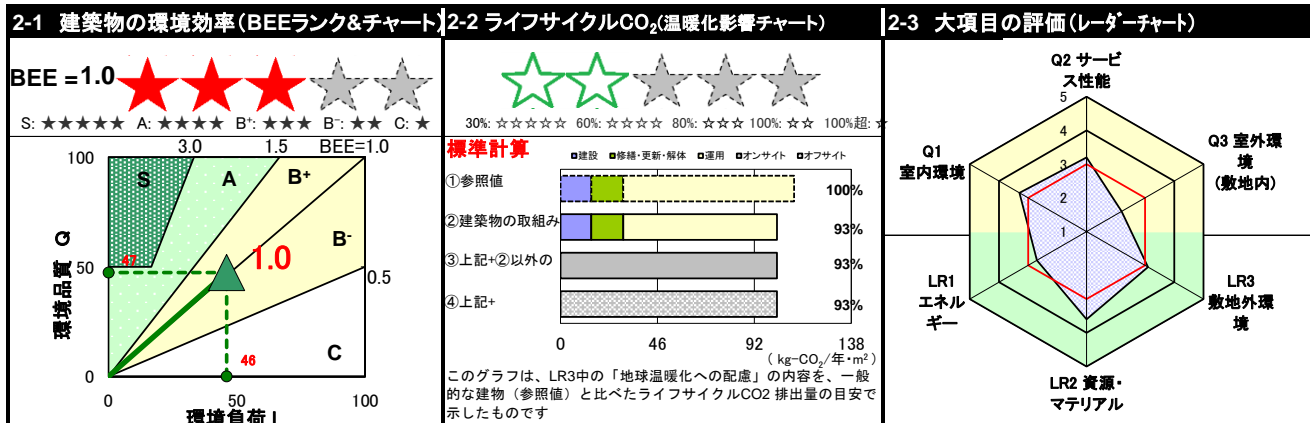
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ナリコマフード九州セントラルキッチン	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市小倉南区葛原元町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年5月 予定	評価の実施日	2019年2月26日
敷地面積	10,388 m ²	作成者	菅谷 新明
建築面積	4,188 m ²	確認日	2019年2月26日
延床面積	9,209 m ²	確認者	菅谷 新明



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。		
Q1 室内環境 ・ゾーン毎にリモコン等で照明制御が可能な計画とし、光環境向上に配慮している。 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内の良好な空気環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。 ・天井高を高く確保することで、室内の快適性の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・
LR1 エネルギー ・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、省資源化に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。 ・敷地内に屋外広告照明の設置は避け、周辺の光害抑制を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ナリコマフード九州セントラルキッチン 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.8	
Q1 室内環境					0.31		-	3.3	
1 音環境				3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2		5.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-	2.6	
2.1 室温制御				3.5	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		断熱性能の高い外皮材料を使用		5.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.8	0.25	-	-	3.8	
3.1 屋光利用				3.6	0.30	-	-		
1 屋光率		屋光率:2.106%		4.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 屋光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 屋光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		設計照度:700lx		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		リモコンにて複数系統での調整が可能である。		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.8	0.25	-	-	3.8	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				4.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積を多く設けている		4.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		給排気口の位置を異なる方位かつ6m以上離して設置		5.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2	
1 機能性				3.1	0.40	-	-	3.1	
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高を確保することで広さ感や開放感に配慮		4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース:1%以上		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計を行っている		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用年数の長い外装仕上げ材を使用		5.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を確保することで将来の用途変更へ考慮	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	空間の自由さを確保し将来の用途変更へ考慮	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用[BPI][BPI _m]=0.73	5.0	0.03	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.12	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.90	2.5	0.61	-	-	2.5
4	効率的運用		3.0	0.24	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減	ハイベースNEO工法等を採用	4.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン購入法、エコマーク商品を採用	4.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	ユニット部材として、OAフロアを採用	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡系断熱材の採用はない	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車台数を確保し、車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	